

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

自ら学ぶ賢い生徒の育成

～関心・意欲の向上から基礎・基本の定着をめざして～

＜本年度の学力向上策＞

◆学校で選択して拡充する教科として数学を設定し、その実施について以下のように行い基礎・基本の定着をはかる。

(1) 「放課後若木タイム」

- ・定期テスト前部活動停止期間、帰りの会を含む20分間に数学の「サポートテスト(小テスト)」の実施(年間計15回)

(2) 「若木タイムチャレンジテスト」

- ・公開なしの土曜授業と2学期当初学年内授業に、50分間の「チャレンジテスト(復習テスト)」の実施(計3回)

(3) 「大会中若木タイム」

- ・新人体育大会、学校総合体育大会期間中の学年内授業で、計4回の数学の授業を学年ごとに設定

(4) 学年内授業での数学の優先的实施

- ・公開ありの土曜授業と学期始め・終わり等での学年内授業で、各クラス数学の授業を2回以上実施

◆授業でのICTの積極的活用

- ・導入時、実物投影機などの視聴覚教材を利用し、興味・関心を高め、意欲の向上につなげる。

◆アクティブ・ラーニングの積極的実践

- ・生徒同士の教え合い活動を中心とした授業実践やスモールティーチャーを活用し、生徒が主体的かつ意欲的に取り組めるようにすることで学力向上につなげる。同時に、コミュニケーション能力や主体性といった基礎的な人間力の養成も期待できる。

＜本年度の振り返り＞

◆「若木タイム」は、予定通り実施することができた。生徒による学校評価(若木タイムには意欲的に取り組んでいる)では、肯定的な意見が84%超と高い結果だった(昨年度比+9.4%)。

課題として、放課後若木タイムの内容がプリント学習を主とするものだったため、苦手な生徒にとっての課題克服までには至らなかった。今後は、教え合い活動を取り入れたりするなどして、すべての生徒にとっての基礎学力の向上を図っていく必要がある。

◆各教科では、積極的にICTの活用ができた。しかし、大型TVの台数が少なく、使用したいときに使用できないなどのハード面での物理的課題が残った。

◆5月と10月の「よい授業アンケート」の結果を比較したところ、4つの因子(授業マネジメント・基礎アップ・授業スキル・児童生徒の活動)のうち、児童生徒の活動(アクティブ・ラーニング)が1ポイント弱の伸びではあったが、全体としては上がった。今後は、アクティブ・ラーニングだけでなく教員の授業力向上のための校内研修などを積極的に実施していく。